

ON!

old but New

伝統を残しながら、変わり続ける街
大手町・丸の内・有楽町の
街づくりを発信する情報誌

大丸有アンダーグラウンド物語

2008 AUTUMN

015

有楽町から東京駅、そして大手町へ。地下道だけを通して移動する。

～東京駅地下では、丸の内側から八重洲側への回遊も

コース



1 有楽町マリオンからイザ出発
からくり時計で有名な有楽町マリオン。今回は、ここから地下通路へと入る。



2 南町奉行所があった 有楽町イトシア地下へ

有楽町イトシアは、江戸時代に南町奉行所があった場所。ゆかりの品が地下駅前広場の壁に配されているとともに、屋敷を囲っていた石垣は休憩用のイスに利用されている。



3 東京国際フォーラム ガラス棟を通る

有楽町イトシアから東京交通会館、さらに東京国際フォーラムへと進む。ここから先は2ルートを選べるが、地下に外光が降り注ぐガラス棟側がおすすだ。



4 JR京葉線東京駅改札口付近

東京国際フォーラムを抜けると右手にJR京葉線東京駅改札口がある。それを見やり左方向へ歩いていくと東京駅丸の内南口に通じる「アートロード」となっている。ここはギャラリーとしても使われている。



5 新丸ビル前の 「現代錦絵」

丸ビルを過ぎ、新丸ビル地下入り口へ。その先の壁面を気をつけて見ていくと、錦絵調にこの町を描いた巨大絵画があり、東京駅や丸ビル・新丸ビルなど大丸有の全体像を見ることができる。



6 丸の内オアゾの地下街を通過

「現代錦絵」から開放感いっぱいの地下道を道なりに歩き、丸善のマークを目印に左折すると丸の内オアゾ地下街だ。ここには10数店のショップ&レストランがある。



7 地下農園「PASONA O2」

丸の内オアゾ地下街を抜けて左折すると大手町野村ビルがある。この地下2階に地下農園があり、人工照明や水耕栽培を用いた新しい農業を見学できる。平日は見学可。

大丸有は「工」な街

大丸有の大切なインフラ 丸の内オアゾの地域冷暖房施設



大丸有地区は個々のビルに冷暖房装置を設置していない。これらを1カ所に集中し、それを各ビルに供給する「地域熱供給システム」を採用している。これにより、冷暖房の効率化が図られ、個別に行うより



約12%もの省エネを実現している。実は、この地域冷暖房施設が設置されているのが丸の内オアゾの地下4階で、3つのプラントをネットワーク連携で運転している。

行幸通り地下には 植栽ポットが埋まっている

日本で初めての都市計画駐車場のひとつとして、1960年につくられた「丸の内駐車場」。この「丸の内駐車場」の地下1階部分を利用して新丸ビル誕生とともに整備されたのが行幸通り地下通路だ。地上の行幸通りには銀杏の4列並木が再現される予定で、巨大な植栽ポットがちょうど行幸地下ギャラリーのバックヤード部分にある。

▼パシフィックセンチュリープレイス丸の内ビル地下1階

▼GranTokyo South Tower地下1階



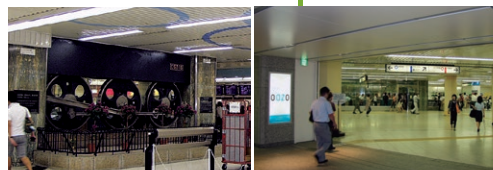
11 2つのビルにまたがる話題のスポット「グランアージュ」

「東京キャラクターストリート」からさらに八重洲地下街を進むと、GranTokyo South Tower地下1階そしてパシフィックセンチュリープレイス丸の内ビル地下1階へと続く。ここは飲食店を中心とした商業ゾーン「グランアージュ」で、多彩な食を楽しむことができる。



10 八重洲側の東京駅一番街

「東京キャラクターストリート」へ丸の内北口から自由通路を八重洲方面へ。東京駅一番街ではテレビやアニメにちなんだキャラクターグッズが買える「東京キャラクターストリート」を楽しもう。中央にはイベントスペースもある。



9 丸の内オアゾ入り口を右折すると「動輪の広場」

新丸ビルから丸の内オアゾ方面へ向かい、左折せずに右に曲がると、JR東京駅の名所「動輪の広場」がある。ここは待ち合わせ場所としても有名なスポット。飾られている動輪は、かつて東海道線を行っていたC62-15型蒸気機関車なのだ。

コース



8 目的地の東京サンケイビルメトロスクエア

のんびり歩いて約45分、目的地の東京サンケイビルメトロスクエアに到着。ここは地下なのに空が見える開放的な空間「ガーデン」や外光が差し込む「ライトコート」、そして壁面の「ブリックギャラリー」があり、多彩なイベント&アートを楽しむことができる。

コース



13 このエスカレーターをあがると行幸通り地下通路
丸ノ内線東京駅改札口は地下2階に相当し、行幸通り地下は地下1階となる。このため、行幸通り地下へ行くにはエスカレーターか階段で昇ることになる。



14 左右に広がるギャラリーが目を楽しませてくれる
行幸通り地下の左右に広がる「行幸地下ギャラリー」。ここでは、さまざまな展示が行われており、道行く人たちの目を楽しませてくれる。



15 行幸通り地下通路から 日比谷通り地下へ

東京駅から日比谷通り地下まで約200mをつなぐ行幸通り地下。つきあたりを右に曲がると大手町駅方面、左に曲がると二重橋前駅方面となる。



16 ここから地上に出ると 皇居東御苑

東京駅地下から行幸通り地下通路を通り、大手町方面へ向かうとC10出口の案内がある。ここから地上に出ると、皇居で唯一公開されている東御苑へ行くことができる。



17 大手町ビル地下商店街 Ottiモール

50年の歴史がある大手町ビル地下商店街。行幸通り地下とほぼ同じ200mもの長さを誇る。大手町近辺では貴重といえる居酒屋もある。

大丸有は水の街

日比谷公園応急給水槽

大丸有に隣接する日比谷公園。その地下には巨大な水瓶が埋められている。これは、震災対策用の応急給水槽で、小学校のプール約5杯分に相当する1,500トンもの水が確保されている。これは50万人分の飲料水に相当する。オフィスビルや買い物客が多いターミナル



駅では、大地震発生時に帰宅できない人が大量に出ることも想定され、応急給水槽はそのための備えでもある。

総武本線地下駅をグランドアンカーで固定

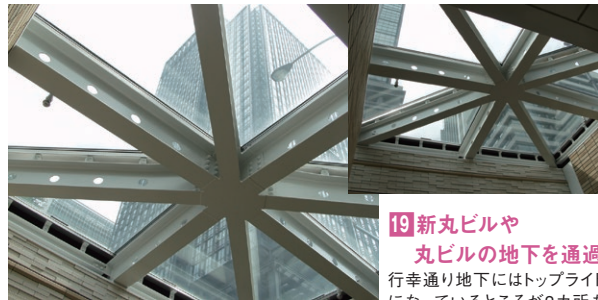
大丸有地区は地下水が豊富なことで知られる。年々地下水位があがってきて、それにともない地下5階に位置するJR総武本線の東京駅地下駅は強い水圧を受け浮き上がる恐れが出た。そのためJR東日本では、約70本ものアンカーを打ち込むことで水圧に対処する対策を講じている。また、JR東京駅周辺の横須賀線・総武本線トンネルからは大量の地下水が湧き出ている。この地下水をトンネル内に設置した導水管を通じて、大井町付近の立会川の月見橋まで誘導、立会川の浄化に役立っている。

丸の内中央口から行幸通り地下を歩き大手町へ。 一方で、日本工業倶楽部会館からは新丸ビル・丸ビルを經由して有楽町方面へ

コース



**日本工業倶楽部会館
地下をスタート**
意外と知られていないが、日本工業倶楽部会館は新丸ビルと地下通路でつながっている。ここからスタート。



19 新丸ビルや 丸ビルの地下を通る

行幸通り地下にはトップライトになっているところが2カ所あり、ここから丸ビルや新丸ビルを眺めることができる。



行幸通り地下通路中央付近のサークルライン

行幸通り地下を日比谷通り地下へ向かって歩くと、伸通りとクロスするあたりにサークルラインがある。ここから、天気予報などの文字情報が発信されている。



21 丸ビルから伸通りを 横切り三菱商事ビルへ

大丸有を横に結ぶ丸の内伸通り。ここを地下で横切る方法は2つある。ひとつは、行幸通り地下を直進するルート、もうひとつが丸ビル地下から三菱商事ビル地下へと進む方法だ。



22 よく見ると、途中から 壁の色と模様が変わる

写真では少しわかりにくいですが、日比谷通り地下を二重橋前駅から日比谷駅へと向かう途中で壁の色と模様が変わるところがある。これは、東京メトロと都営地下鉄との境目でもある。



23 ここを直進すれば 日比谷公園出口へ

都営三田線日比谷駅改札口を過ぎると、やがて道が二手に分かれる。今回は左折するが、直進すると日比谷公園へ通じるA10出口となる。



24 ザ・ペニンシュラ東京入り口

ここを直進してザ・ペニンシュラブティック&カフェへ寄り、ちょっと一休み。人気のペニンシュラチョコレートをお土産に買うのもいい。



25 Aコースの出発点と同じ 有楽町マリオンへ

スタート地点1の有楽町マリオン地下。ここからAコースのようにトシア方面へ行かず、画面右へ進むと銀座から東銀座まで歩くことができる。

世界に類を見ない 大丸有地下ネットワーク

都市地下空間活用研究会幹事
三菱地所株式会社 都市計画事業室 副室長
水口雅晴



大丸有といえば、オフィスビルの並ぶ街というイメージですが、実は発達した地下空間も特徴のひとつです。東京駅前広場の地下を中心に、大手町から日比谷までの約1.7kmが、ほぼ直線につながっています。いわば、大丸有地下の背骨。ここを中心に、駅と駅、ビルとビルとを連絡する地下通路が縦横に延びて地下ネットワークを形成しています。こうした地下面積の合計は約5万m²。東京ドームとほぼ同じ広さで、世界的にもこれだけ発達した地下は珍しいのではないのでしょうか。

大丸有地下のスタートは、1937年(昭和12年)。当時の丸ビルと東京駅南口をつないだのがはじまりです。これにより、地上の自動車や市電(当時)、天候に左右されずに街を歩くことができるようになりました。その後、地下鉄やビルの建設に合わせて地下通路はどんどん延伸。最近では、明るくて内装も高級感がある行幸通り地下が完成し、今までの地下のイメージを一変したと注目されています。

ビル工事で地下を掘ると墓跡が出土することがあり、お江戸以前の大丸有にはお寺がたくさんあったようです。地形もずいぶん違って、日比谷入り江が大手町ビルあたりまで深く入り込んでいたようです。地下は地上以上に雄弁で、丹念に調べていくと、こうした中世の大丸有の姿を見つけることもできます。また、昭和10年代には中堀通り地下化計画が進められました。戦争のため工事は中断され埋め戻されてしまいましたが、その遺構は今でも地下に残っています。

ビルの地下は、通常、駐車場やマシンルームとして活用されています。しかし、街のインフラとして捉えた場合、貨物を効率的に搬送するための物流センターや災害時の食料・水、資機材の備蓄倉庫等々、さまざまな形で利用されています。まさに、縁の下の力持ちですね。地下は都市にとってなくてはならない重要な装置といえ、地下整備の充実こそがこの街の付加価値をさらに高めていくのではないのでしょうか。

丸の内トラストタワー本館、11月に竣工

「丸の内トラストタワー」は2棟で構成され、「N館」は2003年9月に竣工。そして、「本館」は先進の高性能オフィスに加え、上層階に外資系ラグジュアリーホテル「シャングリラ ホテル 東京」を配し、今年11月に竣工予定。

[概要]

- ・主要用途：事務所・ホテル・店舗 ・敷地面積：約12,000m²
- ・延床面積：約180,600m²(本館：約115,500m²)
- ・高さ：約178m ・階数：地上37階 地下4階
- ・竣工時期：2008年11月末(ホテルオープン：2009年3月)



光都東京・LIGHTOPIA2008開催

12月19日(金)より28日(日)まで開催される光の祭典。「アンビエント・キャンドルパーク」、「フラワー・ファンタジア」など、大丸有地区全体で展開される予定。

光都東京・LIGHTOPIA2008商標登録済
プロデュース・照明デザイン 石井 幹子/写真は昨年のももの



丸の内イルミネーション2008

丸の内の恒例となった冬のイルミネーション。環境にも配慮した“シャンパンゴールド色”のLED約85万球が、街路樹を華やかに演出する。

期間：2008年11月14日(金)～2009年2月15日(日)
時間：午後5時～11時
場所：丸の内仲通り 他



昨年の丸の内イルミネーション2007
開催風景



発行：大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル635区
TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367
http://www.lares.dti.ne.jp/~tcc/

*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら
右記までお寄せください。e-mail:tcc@lares.dti.ne.jp

まち歩き携帯ナビ



「東京丸の内ユビキタス
ミュージアム」へようこそ

